

愛知県がんセンターは、東海地方におけるがん診療、研究、研修の拠点として、昭和39(1964)年に設立されました。がんセンターの病院では高度の診療施設と技術を駆使してがん医療をおこなってきました。



その結果、がんセンター開設当初のがん患者さんの5年生存率は40%程度でしたが、生存率は年々向上し、最近では60%程度に達しています。また、最近では単に生存率を高めるだけでなく、日常生活上の支障をできるだけ少なくするために機能を温存した治療を行っています。

研究所では、以前はがんの根本的解決を目指して、がんの本態解明のための基礎研究に力を入れてきましたが、最近ではこれまでに得られた基礎研究の技術と成果を活かして、新しいがんの診断、治療方法の開発に向けての臨床研究や予防研究に力を入れています。

研究所と病院の共同研究もいくつか行われており、肺がんや胃がんの遺伝子診断など、その成果の一部は実際に臨床応用され、「高度先進医療」として認可されています。今後は研究所と病院の共同研究のみでなく、民間との共同研究も推進したいと考えています。

今回、がんセンターの病院と研究所で得られた成果や病院で行っている最先端の診療技術などを、広く県民の皆様にご覧いただくために、「がんセンターNEWS」を発刊することにしました。今回は創刊号ですが、今後は定期的に、年に2回くらいのペースで順次、病院と研究所で得られた主な成果や病院各科の診療医などをご紹介します予定です。なお、がんセンターではインターネットのホームページでも病院と研究所の各部門のスタッフや主な成果を公表していますのであわせてご覧いただけましたら幸いです。がんセンターのホームページをご覧いただいてもわからないことがありましたら、「情報広場」に「質問コーナー」を設けましたので、ここへ質問をお寄せ下さい(詳細については4頁目の「情報広場欄」をご参照下さい)。

がんセンター病院の外来受診、入院患者さんのお見舞いなどで、がんセンターへお越しの機会がありましたら、病院1階のアトリウムに、がん統計、がん予防、研究成果などパネルで示していますので、ご覧下さいますようお願いいたします。

愛知県がんセンター総長: 富永



◆病院からの報告(1)

「個性的ながん治療を目指す」

(副院長兼消化器内科部長:大橋 計彦)

がんは様々な遺伝子の変異により起こり、がんの種類や個人差により生物学的特性が異なることが判ってきました。治療もいままでの腫瘍細胞の選択性が低く、副作用の多い抗がん剤と違い、分子生物学的ながん細胞の特性に合わせた薬剤が開発され臨床応用が始まっています。



この治療のためにはがん組織を採取することが必要となります。体表に近い組織の採取は容易であり、体内でも胃や大腸などは内視鏡を応用すれば大きな苦痛もなく組織採取が可能です。しかし体の深部臓器からの採取は困難と考えられてきました。しかし、ここ数年の画像診断装置の急速な進歩は腫瘍を鮮明に描出することのみならず、それらの装置を使いリアルタイムのガイド下に腫瘍組織の採取が可能となりました。例えば、内視鏡の先端に超音波装置を付けた超音波内視鏡(EUS)により腸管の粘膜下腫瘍、縦隔内や腹腔内リンパ節、膵腫瘍への穿刺細胞診が可能です。また、CTガイド下に肺を含めCTで描出可能な腫瘍性病変の穿刺も可能です。

両方法とも優れた技術を持つ臨床医と適格な判断のできる細胞診、病理医が不可欠です。愛知県がんセンターではCT下穿刺は放射線診断部で、超音波内視鏡は内視鏡部で日常的に施行され、年間、CT下穿刺は肺がんを主な対象として約150件、EUSは粘膜下腫瘍、膵がんを中心に約100件行われ、組織採取率、診断的中率共に90%以上の高い診断能を示しています。今後、細胞組織学的な証拠はがんの診断ばかりでなく、がんのオーダーメイド治療にも不可欠となりますので、がん専門病院として時代の最先端の器機と高度な技術能力を維持することが任務です。

◆病院からの報告(2)

「高度先進医療」

(遺伝子病理診断部遺伝子診断科医長 谷田部 恭)

これまでは基礎生物学と臨床医学の間には大きな隔たりがありました。基礎の研究者は理論と現実とのギャップに首をかしげ、臨床のお医者さんは基礎の成果を直接利用するなどということは考えられない状態でした。



しかし近年の科学の発展は目覚しく、ヒトゲノムの全貌も既にほぼ明らかにされました、すでに5番、16番、19番、21番、22番染色体の解読はすべて終了しました。これら発展によりこの隔たりは間違いなく解消されつつあります。たとえば、ある種の白血病は特定の遺伝子異常によって起こりますが、この遺伝子異常を正常化する薬により多くの方が益を受けています。この様な新しく得られた多くの知見を行かすチャンスを増やすため、高度先進医療制度が制定されました。この制度は、多くの研究でその安全性および有用性が確認された高度先進医療を行えるようにするものです。いわば保険承認医療

の一步手前にある医療を提供しようという制度です。この様な医療を行える特定承認保険医療機関は、先進医療を支える基盤が質・量両面において十分な要件を満した施設である必要があります、厚生労働省の承認が必要です。愛知県がんセンターにおいては研究所を持っている利点を生かし、研究所と病院でうまく連携してその成果を伸ばしてきました。その中で生じた成果により昨年（平成12年度）より、承認を受け、“固形腫瘍のDNA診断”を高度先進医療として提供しています。詳細はホームページをご覧ください（<http://www.acc.pref.aichi.jp/acc/index.html>）。最先端の医療を施行するがんセンターとして努力し、その成果を多くの人と分かち合っていきたいと思っています。

◆ 研究所からの報告

「ヒトゲノム解析とがんセンター」

（研究所・分子腫瘍学部 部長 高橋 隆）



一昔前には夢物語とさえ思われていたヒトゲノムの解読が宣言され、その恩恵を享受できる時代になりました。愛知県がんセンターの研究所では、がんの克服を目指したさまざまな研究にこのヒトゲノムに関する膨大な情報を積極的に応用しています。

私たち分子腫瘍学部が主な研究対象としている肺がんは、日本におけるがん死亡原因の第1位であり、交通事故死亡者数の3倍を軽く上回る5万人以上もの方が1年間に肺がんの犠牲となっているのです。そしてさらに困ったことに、この肺がんは今後ますます急速に増加すると予想されています。

同じ種類のがんでもその治療効果はしばしば症例ごとに異なります。例えば3～4万個と言われる遺伝子のうち、ある種の遺伝子の使われ方のパターンを調べるによって、この症例のがんには非常に有効な治療法であっても、異なったパターンを示す症例にはあまり効果が期待できず、逆に別の治療法が極めて有効であると予測がつくようになれば、それぞれの患者さんごとに最適な治療を選択する、いわゆるオーダーメイド医療が可能となります。

今はまだ肺がんは極めて手ごわいがんです。しかし、ヒトゲノム解読の成果を積極的に応用した、がんの遺伝子レベルの研究が進むことにより、画期的な治療法の開発が目前まで迫ってきていると言えます。がんセンターで行なわれている研究は、愛知県民のみならず、全国のニーズに直接応えるものであると自負しております。

診察医の紹介

今回は、**胸部外科**です。

呼吸器系の腫瘍性病変、特に肺がん及び食道がんを中心に患者さんの利益を第一に考えて、説明と同意を徹底し、根治性を保ちつつ合併症の少ない手術を行っています。また、革新的ながん診療法の開発を目指した研究も、研究所と密接に協力しつつ行っています。

部長	外来部長を兼務	社会復帰部長を兼務	医長
----	---------	-----------	----

			
光富徹哉	陶山元一	篠田雅幸	波戸岡俊三
みつどもてつや	すやまもとかず	しのだまさゆき	はとおかしゅんぞう

主な診療案内

新来:午前8時30分から午前11時30分まで
再来:午前8時00分から午前11時30分まで

診療科	月	火	水	木	金
総合初診	山雄	杉浦	山雄	大野・森島	大熊
消化器内科	大橋・山雄・松浦・渡邊	大橋・鈴木・澤木	大橋・山雄・松浦・澤木	中村・渡邊	松浦・中村・鈴木
呼吸器内科	樋田	杉浦・吉田・堀尾	堀尾	杉浦・樋田・堀尾	吉田
血液化学療法科	村上・鏡味・田地	森島・小椋・神谷	村上・田地	森島・小椋・神谷	村上・鏡味
頭頸部外科	長谷川・藤本		長谷川・加藤	(予約制)	寺田・藤本(第3)・加藤(第4)
胸部外科	(予約制)	(予約制)	(予約制)	陶山・波戸岡	光富・篠田・陶山・波戸岡
乳腺外科	岩瀬・水谷(三浦:予約制)	岩瀬・岩田・水谷(三浦:予約制)	三浦・岩田	岩田・水谷	三浦・岩瀬
消化器外科	(予約制)	小寺・金光	加藤・山村・清水	安井・平井・伊藤	(予約制)
整形外科	高橋・山田	(高橋:予約制)	山田		高橋(第1・3・5)・山田(第2・4)
泌尿器科	杉村		林	杉村・林	
婦人科	葛谷・那波	葛谷・中西・丹羽	那波・中西	葛谷/中西・那波・丹羽	中西・丹羽
放射線診断部			荒井・松枝	荒井・新楨	荒井・稲葉
放射線治療部	古平・鎌田	古平・古谷	不破・古谷	不破・鎌田・古谷	不破・古平・鎌田

交通案内

市バス「自由が丘」下車徒歩3分

- ・「名古屋駅」又は「栄」から市バス 基幹2系統 「自由ヶ丘」又は「猪高車庫」行乗車 (所要約40分)
- ・地下鉄東山線「本山」から市バス 八事11系統 「光が丘」又は「猪高車庫」行乗車 (所要約15分)
- ・地下鉄東山線「池下」又は「覚王山」から市バス 千種区系統 「猪高車庫」行乗車 (所要約20分)
- ・地下鉄東山線「星ヶ丘」から市バス 星丘系統 「大曽根」行乗車 (所要約20分)

情報広場

がんセンターのホームページ(以下、HPという。)がリニューアルしたことをご存知でしょうか。“利用者の立場にたった、利用しやすいHP”をリニューアルのポイントとしました。素人の職員が参考書を片手に、眉間に皺を寄せて製作しました。

がんセンターのトップページ (<http://www.acc.pref.aichi.jp/acc/>) から「情報広場」へジャンプしてみてください。ここに「質問コーナー」を設けました。がんに関する質問をお受けしようというものです。ご質問への答えは、同じサイトからジャンプできる「質問Q&Aコーナー」に掲載します。是非、ご利用ください。ただし、質問内容は暗号化されませんので十分に注意してください。

がんセンターでは一方的な情報提供のHPではなく、利用者とのコミュニケーションを大切にしたHPの製作をめざしています。ご期待してください。

所在地 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1

TEL(052)762-6111

FAX(052)764-2963